

いそぶの話

鷲と矢

一羽の鷲が、高い崖の上に止つて、一匹の野兎を狙つて居りますと、獵夫が其後に隠れて居て、弓に矢を番つて鷲を射ると、狙違はず鷲の胸に當りました。鷲は射られたまゝ、不圖其矢を見ると、矢の羽が、同じ自分の羽から出来て居るので、思はず次の様に叫び出しました。「己の羽で拵らへた矢で、己の生命を取られるとは、よくよく残念で堪らない」

旅順口で戦死したマカロフ丁督によく似てるではありませんか

獅子と野猪

ある夏の暑い時、一匹の獅子と野猪とか、何方も喉が渴いて耐らないので、小さな井を見付けて、

水を飲みに来ました。然し、誰が先きに飲むかといふことで議論が起つて、中々容易にきまらない。

とうとう二人で烈しく立ち廻つて、噛み合を始ました。すると、上の方で、鷹が一羽飛び廻はつて居て、此喧嘩を見て居ます、そうして、どつちか一匹殺されたら、其肉の御馳走にありつかうとして待つて居ます。之を見て二人は、忽ち噛み合を廢めました、そして言ひますには「鳥や鷹の餌食になるよりは、いっそ二人で仲直りをしようじゃないか」

馬と影

旅客が、道を歩いて居て、餘り疲れたからといふので、馬を雇うて乗つて行きました。所が、丁度此頃の様子に暑い時でしたから、頭から日さんに照りつけられて、とても耐らないといふので、とうとう馬から下りて、其馬の影に座つて休まうとしま

した。然し、其影は狭いので、旅人が這入ると馬子が這入ることが出来ません、そこで、己が這入るのだ。いや己が這入るのだといって、二人の間に議論が始まりました。つまり馬子はこういうのです、「一体、馬を借りたいといったから馬丈けを借したので、影までも一所に借しはしなかつた、だから、馬の影は、當然、こつちが使ふ權利があるのだ、」すると、旅人は「いや、元來影は當然馬に附いて居るものだ、だから、既に馬を借りた以上はどうしても、影を使用する權利は、己の方になくてはならぬ」こんな具合に、議論をして居たが、とうとうお仕舞には、議論に花が咲いてなぐり合になりました。其間に馬は、何處かへ駈けて行つて仕舞ひました。

蟻と鳩

一匹の蟻が川岸へ行つて水を飲もうとして居た所を急に波のために、流されて、今にも溺れ様として居ました。すると、其川の上に、かぶさりかゝつた木の枝に、一羽の鳩が止つて居て、其蟻の溺れて居るまゝ側へ向つて、一枚の葉を落してやりました。蟻は、地獄で佛の思をして、やつこの事で其葉に這ひ上つて、無事に、川岸に漂着して、危い所を助かりました。夫から暫くして、此鳩が、或る木の枝に止つて居ると、一人の鳥さしが、竿の前にモチをつけて、下から、そつとさそうとして居ると、彼の蟻は、夫と知つて、其鳥さしの足に思ひり食ひ付きましたから、鳥さしは吃驚して、竿を投げる、其拍子に鳩は飛んで行きました

十六

お笑ひ草